

**委託事業実施内容報告書**  
**平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業**  
**【地域日本語教育実践プログラム(B)】**

**実施内容報告書**

団体名：大阪府教育委員会

**1. 事業の概要**

事業名称	地域で活動する識字・日本語教室の支援力強化事業
事業の目的	・府内の識字・日本語教室相互の連携体制を構築する。 ・学習支援者が、学習者の多様なニーズに応えられるスキルを高め、教室の支援力を強化する。 (大阪府では、識字運動の中で作られ、活動を続けてきた識字学級にも外国人学習者を受け入れ、ともに学ぶ活動が行われており、日本語教室とともに識字・日本語教室として、学習活動推進のための取組を進めている。)
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	府内の在留外国人数は増加傾向にあり、とりわけ永住者数は平成22年～平成27年で23%増加している。また国家戦略特区指定(外国人による家事代行)により、外国人住民は今後も増加が見込まれ、在留外国人をめぐり社会的孤立、貧困、婚姻関係、子どもの教育等の課題がさらに多様化、複雑化しており、地域の日本語教室が果たす役割も多様化して一層の教室の学習者への対応力強化が望まれる。
本事業の対象とする空白地域の状況	府内自治体のうち、日本語教室がない自治体は5町村であり、現在のところ新たに開設する計画はないが、市町村域を越えた協働体制を充実させることによって、当該自治体の外国人住民等の学習機会を保障できるよう、取組を進めている。
事業内容の概要	地域の日本語教室の学習者への対応力強化のために以下の取組を行った。 ・府内を5つのエリア(豊能エリア・三島エリア・北河内エリア・中・南河内エリア・泉州エリア)に分け、システムコーディネーターを各1人配置し、教室どうしの連携強化及び各教室の運営支援や相談への対応を行い、識字・日本語教室相互の協働体制を構築した結果、教室の運営力を高めることにつながった。 ・初めて日本語を学ぶ外国人への学習支援のための基礎的なスキルを学ぶ「日本語初心学習者支援講習会(ゼロ初級学習者への学習支援講習会)」、外国人学習者の生活に関わる課題解決のために、様々な人や環境に働きかける基礎的なスキルを学ぶ「社会とつなぐ日本語教室運営講座(多文化ソーシャルワーク講座)」を開講した。 ・外国人学習者が教室活動に支援者として、参加してもらうことの必要性を学ぶ「外国人支援者養成講座」を実施した。外国人支援者の養成は、多様化・複雑化する学習者の課題への教室の対応力強化に寄与できた。
事業の実施期間	平成30年5月～平成31年3月(11か月間)

**2. 事業の実施体制**

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	上杉 孝實	京都大学名誉教授
2	森 実	大阪教育大学教授
3	有田 典代	NPO法人関西国際交流団体協議会理事
4	石橋 由紀子	NPO法人市民活動フォーラムみのお理事
5	池嶋 伸晃	大阪府教育庁市町村教育室 地域教育振興課首席社会教育主事
6	榎井 則子	大阪府教育庁市町村教育室 地域教育振興課主任社会教育主事



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年8月29日 (水) 15:00～17:00	2時間	大阪府庁 咲洲庁舎41階 会議室	上杉 孝實、森 実 有田 典代、石橋 由紀子 池嶋 伸晃、榎井 則子	1. 事業進捗状況の報告 2. 今後の取組の検討
2	平成31年2月6日 (水) 13:30～15:30	2時間	大阪府庁 新別館南館8階 共用会議室1	上杉 孝實、森 実 有田 典代、石橋 由紀子 池嶋 伸晃、榎井 則子	1. 事業実施の報告 2. 取組の評価

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	府は、以下の①～⑦の関係機関団体と連携協力して地域における連携体制づくりを進めた。①～④の団体には、取組1「エリアにおける協働体制の構築のための取組」を再委託して行った。①(公財)箕面市国際交流協会(豊能エリア)②(特活)とんだばやし国際交流協会(中・南河内エリア)③かいづか国際交流協会(泉州エリア)④多文化共生社会を考える会(三島エリアと北河内エリア)。①～④の団体から選出されたシステムコーディネーターは、年に6回の会議をもち、エリア内外の連携・協働体制構築をすすめた。府は、⑤海外協カグループ「クスクス」に取組7「日本語教育活動」を再委託して行った。府と⑥府内市町村識字・日本語教育担当課は、連携協力して、府内の識字・日本語学習支援活動を促進するよう努めた。⑦おおさか識字・日本語センターは、HPから教材・資料の提供、教室の検索、イベントの告知などを行った。
------	---

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	事業の目的達成を期すため、中核メンバー及び教育委員会担当課職員が年12回システムコーディネーター連絡会議を開催し、事業の進捗状況の確認を行い、状況に合わせ適切な対応を検討した。また、大阪府内市町村識字・日本語教育担当者との連絡を密にし、各教室への連絡体制の充実を図った。
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞										
取組の名称	エリアにおける協働体制の構築のための取組									
取組の目標	エリア内の識字・日本語教室相互の連携体制を構築する。									
取組の内容	<p>府内を5つのエリアに分け、各エリアにシステムコーディネーターを1人配置し、以下のことを行った。</p> <p>①エリア内の教室を訪問し、各教室の活動状況を把握し、教室間の協働関係づくりを進めた。                  ②教室からの教室運営等に関する相談に応じ助言した。「標準的なカリキュラム案」の活用方法の紹介をおこなった。                  ③エリア内の教室が参加する「エリアネットワーク会議」を開催した。                  ④教室の活動を地域に発信した。                  ⑤システムコーディネーター連絡会議を開催した。(5人のシステムコーディネーター、本事業中核メンバー、本事業担当課職員で月1回、連絡会議を開き、情報共有及び課題の整理、課題解決のための協議などを行った。)</p> <p>*エリア…これまで府内を7つのブロックに分けて、それぞれのブロックの連携体制づくりを進めてきたが、本事業では7ブロックの一部を統合し、5つのエリア(豊能エリア・三島エリア・北河内エリア・中・南河内エリア・泉州エリア)で実施した。</p>									
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
取組による体制整備	府内5つのエリアにおける各教室同士、教室と行政その他の組織との連携体制を構築するとともに、5つのエリア間の情報共有も行った。この取組により、府全体としての連携と学習支援体制の整備が進んだ。									
取組による日本語能力の向上	自治体の枠を越えたエリアの協働体制を構築することにより、支援を必要とする人の学習機会が広がった。機会の広がりとともに、質においても、より高度な支援を受けることが可能になった。また日本語教育が行われていない府内5町村に住む外国人も、最寄りの市が開設している教室に通うことで学習機会を得ることができるようになった。									
参加対象者	システムコーディネーター、識字・日本語教室学習支援者、学習者	参加者数 (内 外国人数)	システムコーディネーター5人 大阪府教育庁担当者							
広報及び募集方法	システムコーディネーターについては、各エリア内で活動する組織に再委託した。									
開催時間数	総時間 622時間 (空白地域 時間)	①教室訪問 142時間 ②コーディネート業務 210時間 ③エリアネットワーク会議 8時間 ④システムコーディネーター連絡会議 58時間 ⑤作業補助等業務 204時間								
主な連携・協働先	各地域の国際交流協会、多文化共生社会を考える会、地域の識字・日本語教室、各市町村の識字・日本語教育担当課									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
※該当する場合のみ										
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年10月17日(水) 11:00~12:00	1	能勢町役場	9	エリア内連携構築	今年度の取組について、国の動きについて	河合 大輔			
2	平成31年1月31日(木) 13:00~15:00	2	高槻南スクエア	17	エリア内連携構築	各教室の情報交換・支援者の交流、教室訪問の内容報告、国の動きについて	島貫 清司			
3	平成31年2月18日(月) 14:00~16:00	2	枚方市かがやきプラザ	27	エリア内連携構築	教室運営における各教室での取組、各教室の情報交換と交流、国の動きについて	松藤 昌代			
4	平成30年7月17日(火) 12:00~13:00	1	松原市立新町公民館	13	エリア内連携構築	今年度事業について、事例集について、国の動きについて	内海 京子			
5	平成31年1月26日(土) 16:00~17:00	1	松原図書館	8	エリア内連携構築	各教室の情報交換と交流、識字・日本語シンポジウム、国の動きについて	内海 京子			
6	平成31年1月29日(火) 15:30~16:30	1	泉佐野市生涯学習センター	19	エリア内連携構築	各教室の情報交換と交流、国の動きについて	岩田 光弘			
7	平成30年7月3日(火) 10:00~12:00	2	大阪府教育庁	6	システムコーディネーター会議1	再委託の内容、教室訪問のポイントについて		(参加者)河合 大輔、島貫 清司、松藤 昌代、内海 京子、岩田 光弘、樹井 則子		
8	平成30年9月13日(木) 13:00~15:00	2	大阪府庁 咲洲庁舎	5	システムコーディネーター会議2	教室での事例(教材)について		(参加者)島貫 清司、松藤 昌代、内海 京子、岩田 光弘、樹井 則子		
9	平成30年9月28日(金) 14:00~16:00	2	大阪府教育庁	6	システムコーディネーター会議3	エリア、ブロックでの取組について		(参加者)河合 大輔、島貫 清司、松藤 昌代、内海 京子、岩田 光弘、樹井 則子		
10	平成30年10月16日(火) 10:00~12:00	2	大阪府教育庁	6	システムコーディネーター会議4	各市町での取組について		(参加者)河合 大輔、島貫 清司、松藤 昌代、内海 京子、岩田 光弘、樹井 則子		
11	平成30年11月19日(月) 12:15~14:15	2	大阪府教育センター	6	システムコーディネーター会議5	識字・日本語シンポジウムについて		(参加者)河合 大輔、島貫 清司、松藤 昌代、内海 京子、岩田 光弘、樹井 則子		
12	平成31年2月21日(木) 13:00~15:00	2	大阪府教育庁	7	システムコーディネーター会議6	今年度の取組の振り返り		(参加者)河合 大輔、島貫 清司、松藤 昌代、内海 京子、岩田 光弘、樹井 則子、池嶋 伸晃		

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【平成31年1月31日(木)13:00~15:00三島エリアネットワーク会議】

三島エリアネットワーク会議では、エリア内の識字・日本語教室におけるさまざまな課題について意見交換するエリアネットワーク会議を行政関係者、教室支援者8団体の17名の参加を得て開催した。システム・コーディネーターが教室訪問の報告を行い、教室の運営者、支援者が各教室の課題や取組についての情報交換をして交流した。国の動きを共有し、地域日本語教室の今後について、行政担当者や教室の運営者、支援者と話し合った。

内容

- (1) 三島エリア内の各市町村における日本語教室運営体制の現状報告(システムコーディネーターからの報告による)
- (2) 識字・日本語教室取組事例集に関する感想・意見交換(大阪府教育庁より配付された冊子による)
- (3) 新たな外国人材受入れに関する在留資格「特定技能」に関する情報(法務省ホームページ、各メディアの記事抜粋による)
- (4) 日本語支援者に望まれる資質・能力と研修における教育内容(文化審議会国語分科会の「日本語教育人材の養成・研修の在り方について(報告)」抜粋による)
- (5) その他意見交換(システムコーディネーターの活動についてのアンケート記入)

○取組事例②

【平成31年2月18日(月)14:00~16:00】

北河内エリアネットワーク会議では、エリア内の識字・日本語教室の学習支援者、コーディネーター及び行政担当者が27名参集し、以下の内容で会議をもった。

内容

- (1) 取組発表: 枚方市日本語・多文化共生教室「よみかき」の現状と課題
- (2) 各市町村、各教室の取組について(識字・日本語教室取組事例集の感想など)
- (3) 情報交換

(2) 目標の達成状況・成果

・府内90教室の訪問や各エリアごとにエリアネットワーク会議を開催することで、府内5つのエリアにおける各教室どうし、教室と行政その他の組織との連携が進んだ。また、6回実施したシステムコーディネーター会議で、5つのエリア間の情報共有を行って府全体としての連携と学習支援体制の整備が促進された。

・事業最終年度となる今年度は、エリアネットワーク会議で、教室運営者、支援者、行政関係者、国際交流協会関係者にアンケートをおこなった。以下抜粋する。

「システムコーディネーターの存在と活動について」

- ・各エリア各教室で活動されている様子が詳しく府に伝わり教室支援のニーズが良く分った。
- ・地域内での情報が得られ、自教室運営の参考となった。是非継続して頂きたい。
- ・話だけでなくエリアの情報を聞いて良かった。無くなったら各教室の希望、意見を出す場が無くなってしまうので残念。市を通してとらぶん時間が掛ってしまう。
- ・エリアコーディネーターが各市町間の連携を強めて頂いたこと、又、行政と民間の日本語教室関係者と意見共有の場を作って頂いたり、中々出来なかったことをスムーズにすすめて頂いて助かりました。出来れば今後も中心となれる者が居た方が良い。
- ・「連携が取れた」とまでは言えないが、体制づくりは必要で有ったと思う。連携が成熟していくよう今後とも継続して取り組んで欲しい。
- ・各教室の状況を知り、連絡が取りやすい状態になったことが大きい。日頃から外国人への案内に教室一覧を活用しています。
- ・エリア内他市の教室情報を知る機会を作ってくれて助かった。
- ・他市の状況や情報を纏めて頂き知ることが出来ありがたい。他団体のことを直接聞くことが出来る。
- ・今後3年の制度が終わり、誰がエリア別コーディネーターの代わりをするのか? 継続して欲しい。

(3) 今後の改善点について

・昨年度申し送った今年度の課題として『標準的なカリキュラム案』などの教材について教室訪問やエリアネットワーク会議の場を通じて活用方法も含め周知していく」という事があった。この点については、十分に取組めなかった。ひとり一人のシステムコーディネーターで取り組むには、大きな課題であったため、エリアネットワーク会議で講師を招いて、『標準的なカリキュラム案』などの教材についての講習会を実施するなど企画すればよかったと考える。

＜取組2＞											
取組の名称		日本語初心学習者支援講習会(「ゼロ初級学習者」への学習支援講習会)の開催									
取組の目標		初めて日本語を学ぶ学習者への学習支援方法の基礎を身につける。									
取組の内容		日本語教育の専門家を講師として、初心学習者が陥りやすい不安の解消法や、「やさしい日本語」の考え方、実物を使った日本語指導実践を紹介した。第4回、第5回では、「標準的なカリキュラム案」を用いて、学習者にあった教材の作り方を考え識字・日本語教室での学習支援の基礎を学んだ。									
<input type="checkbox"/> 空白地域を含む場合、空白地域での活動											
取組による体制整備		初めて日本語を学ぶ学習者に対応できる教室が増えた。また、エリア内の教室どうしのネットワークを活用することによって、初めて日本語を学ぶ学習者に対応できない識字・日本語教室の支援に役立った。									
取組による日本語能力の向上		これまで日本語学習機会のなかった学習者に学習機会を提供することができるようになった。ゼロ初級学習者への対応に苦慮していた地域で、モデル講習を開催することにより、支援者のスキルアップにつながった。日本語学習を必要とするより多くの学習者を教室で受け入れることが可能となった。									
参加対象者		識字・日本語教室の学習支援者				参加者数 (内 外国人数)		50人 (2人)			
広報及び募集方法		①市町村の識字・日本語担当部局にメールによって周知するとともに、各教室への連絡を依頼した。 ②開催案内チラシを各教室に配布した。 ③講習会を開催する学習センターのある自治体に依頼して、自治体の広報誌に掲載した。									
開催時間数		総時間 11時間 (空白地域 時間)				内訳 2時間×3回 と 2.5時間×2回					
主な連携・協働先		各国際交流協会等、各識字・日本語教室、各市町村識字・日本語教育担当課									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
※該当する場合のみ			2								48
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	平成30年7月24日(火) 14:00-16:00	2	東大阪市立市民多目的センター	50	外国人が日本語を学ぶ上での困難について	初めて日本語を学ぶ学習者の声を聞いて考えてみよう。	徐 受 延 松藤 昌代				
2	平成30年7月31日(火) 10:00-12:00	2	東大阪市立市民多目的センター	44	・大阪府における外国人居住者の現状と今後 ・日本語初級学習者向け教材の考え方	・生活者としての外国人について知る ・生活者としての外国人に必要な日本語初級学習を考える。	榎井 則子 安野 勝美 林 詩				
3	平成30年8月21日(火) 10:00-12:00	2	東大阪市立市民多目的センター	32	日本語教室における対人援助の視点とやさしい日本語	日本語を学び始めた人々と学習支援者の「関わり方」を考える。	安田 乙世				
4	平成30年8月28日(火) 10:00-12:30	2.5	東大阪市立市民多目的センター	42	実践手法「はじめまして」最初の活動の進め方	「カリキュラム案5点セット」を参考に「生活上の行為」を考えよう。	伊東 和子				
5	平成30年9月11日(火) 10:00-12:30	2.5	東大阪市立市民多目的センター	48	実践手法「発音と文字の指導」	「カリキュラム案5点セット」を参考に「生活上の行為」を考えよう。	伊東 和子	島貴 清司			

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 平成30年7月24日】

講義A 外国人が日本語を学ぶ上で、どのような困難について なんばエルネット日本語専門学校 徐 受 延  
講義B 初めて日本語を学ぶ学習者の声を聞いて考えてみよう 日本語クラブ「ことばの木」 代表 松藤 昌代

講義Aでは、外国人が日本語を学ぶ上で、どのような困難に直面してきたかを、体験をもとに話していただいた。学習者にどのように接するかを考えるきっかけになった。  
講義Bでは、初めて日本語を学ぶ学習者にアンケートした結果をつかって、学習者がどのようなことを求めているか、理解し支援者としての活動を振り返ることができた。



○取組事例②

【第4回 平成30年8月28日】

講義 実践手法①「はじめまして」最初の活動の進め方 「カリキュラム案5点セット」を参考に「生活上の行為」を考えよう(1)  
公益財団法人 大阪YWCA日本語教師会 伊東 和子

はじめて識字・日本語教室にきた学習者を想定し、日本語初級学習者と何をするか、どうやって活動するかを考えて1回目の活動を組み立てた。また、「カリキュラム案5点セット」をどのように活用すればよいかを紹介し、「生活上の行為」の「人と付き合う」のユニットを体験した。



(2) 目標の達成状況・成果

受講アンケートから

- ・受講した講習はあなたの期待やニーズに応じていると思いますか。(4.59/5段階)
- ・講習の内容は、理解できたと思いますか。(4.65/5段階)
- ・この講習で得たことを今後の活動に活かすことができると思いますか。(4.6/5段階)
- ・内容は充実していましたか。(4.69/5段階)

以上の通り、高い評価で各回の平均は、4.63であった。

初めて日本語を学ぶ学習者に対応できる教室の増加につながった。また、エリア内の市町村行政担当者や教室の間で講習内容について情報共有することによって、初めて日本語を学ぶ学習者への対応がむずかしい識字・日本語教室に対応可能な教室につながることができた。

(3) 今後の改善点について

・「カリキュラム案5点セット」を参考に「生活上の行為」を考えようというテーマ設定はよかったが、内容を掘り下げるには、少し時間が足りなかった。最初はどういうときに、5点セットのどこを使えばいいかを記した「実践のためのお助け早見表」から紹介し、教室での日本語学習支援に役立つことを実感してもらって展開するなどの工夫を取り入れる。

＜取組3＞												
取組の名称	社会とつなぐ日本語教室運営講座(多文化ソーシャルワーク講座)の開催											
取組の目標	日本語教室における学習者からの生活に関わる相談等への対応力を高める。											
取組の内容	府内在留外国人の支援に深く関わっている、コミュニティソーシャルワーカー等を講師として、識字・日本語教室の学習者を対象に、外国人を支援するソーシャルワークの手法の基礎を学ぶ講座を実施した。また、講座の中で「標準的なカリキュラム案」の展示、活用方法の紹介を行った。 第1回 11月12日(月) 講義 多文化共生の識字・日本語学習ー多様な人びとが尊重される地域づくりー 大阪大学 国際共創大学院学位プログラム推進機構未来共生イノベーター博士課程プログラム 特任准教授 榎井 緑 第2回 11月19日(月) 講義 大阪府における外国人の相談と対応 公益財団法人 大阪府国際交流財団 相談員 北田 加代子 第3回 11月26日(月) 講義 多文化共生の識字・日本語学習ー子どもの立場からー大阪府立学校在日外国人教育研究会 事務局長 教諭 米谷 修											
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動											
取組による体制整備	外国人学習者から相談される生活に関わる課題について、行政や専門家につなぐことにより、様々な組織の協働を促進することができた。											
取組による日本語能力の向上	外国人学習者から相談される生活に関わる課題について、行政や専門家につなぐことにより、課題解決を図り、学習者が日本語学習を継続、充実することができる環境づくりにつながった。											
参加対象者	識字・日本語教室の学習支援者					参加者数 (内 外国人数)		40人 ( 1人)				
広報及び募集方法	①市町村の識字・日本語教育担当部局にメールによって周知するとともに、教室関係者への連絡を依頼した。 ②開催案内チラシを各教室に配布した。											
開催時間数	総時間 6時間 (空白地域 時間)					1回		2時間×3回				
主な連携・協働先	各国際交流協会等、各識字・日本語教室、各市町村識字・日本語教育担当課											
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本		
		1									39	
※該当する場合のみ												
実施内容												
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名				
1	平成30年11月12日(月) 10:00~12:00	2	大阪府教育センター	40	多文化共生の識字・日本語学習ー多様な人びとが尊重される地域づくりー	生活者としての外国人が地域の一人として活躍できる社会について考える。	榎井 緑	内海 京子・島貫 清司				
2	平成30年11月19日(月) 10:00~12:00	2	大阪府教育センター	35	大阪府における外国人の相談と対応	外国人の具体的な相談内容について知るとともに、相談連携先について認識を深める。	北田 加代子	内海 京子・島貫 清司・河合 大輔				
3	平成30年11月26日(月) 10:00~12:00	2	大阪府教育センター	30	多文化共生の識字・日本語学習ー子どもの立場からー	外国につながるのある子どもの相談事例について理解を深め、相談、連携する機関について知る。	米谷 修	内海 京子・島貫 清司・岩田 光弘				

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 平成30年11月12日】

多文化共生の識字・日本語学習 -多様な人びとが尊重される地域づくり-をテーマに大阪大学特任准教授 榎井 緑さんの講義を聞いて、識字・日本語教室の学習支援者やコーディネーターの方と意見交換をした。  
日本語学習支援の場で求められることは、2つ。① 多様性を認め、不平等を許さないコミュニティづくりをすすめること。② 配慮の平等。多数者への配慮は当然のこととされ、配慮といわれぬ。少数者の配慮は、特別なこととして可視化される。「支援してあげる」ではなく、社会がその人を不利益にしている溝を埋めること。  
外国につながる人が安心して生活し、学ぶことができる環境づくりについて学んだ。



○取組事例②

【第2回 平成30年11月19日】

大阪府における外国人の相談と対応というテーマで 公益財団法人 大阪府国際交流財団 相談員 北田 加代さんにお話を伺い、相談事例を共有した。  
識字・日本語教室の学習支援者やコーディネーターが、外国につながる人の具体的な相談事例や生活上の「困りごと」を解決する方法について学ぶことで、外国につながる人が安心して生活し、学ぶことができる環境づくりを考えるきっかけとなった。



(2) 目標の達成状況・成果

受講アンケートから

- ・受講した講習はあなたの期待やニーズに応じていると思いますか。(4.51/5段階)
- ・講習の内容は、理解できたと思いますか。(4.59/5段階)
- ・この講習で得たことを今後の活動に活かすことができると思いますか。(4.57/5段階)
- ・内容は充実していましたか。(4.57/5段階)

以上の通りの高い評価で各回の平均は、4.56であった。

講師が一方向的に話すのではなく、一緒に考え課題を共有する形で進めたのがよいとの声が多かった。多くの具体的な相談事例への対処方法を共有することにより、学習者からの生活に関わる相談等への対応力を高めることにつながった。

(3) 今後の改善点について

・第3回目の講演テーマ「多文化共生の識字・日本語学習 -子どもの立場から-」について、受講者からもっと話を聞きたかったとの声が多かった。日本語の支援を必要とする児童・生徒への対応が地域の日本語教室の課題にもなっていることが伺われた。今後、学校教育所管課とも連携して、若年学習者への支援を視野にいれて講習会を企画する。

＜取組4＞										
取組の名称	外国人学習支援者養成講座									
取組の目標	識字・日本語教室で学んだ学習者や、外国人学習者が、自身の経験や母語を活かし、学習支援者として活動していけるようにする。									
取組の内容	これまで識字・日本語教室等で日本語を学び、現在は、日本語教育関係に従事する人を講師として、識字・日本語教室が次世代の学習支援者を育成できるように必要な知識やスキルを学ぶとともに、学習者であった人が支援者として活躍している日本語教室を見学し、コーディネーターの講義を通して、学習者が支援者となるために必要な取組を学ぶ講座を実施した。また、講座の中で「標準的なカリキュラム案」の活用方法の紹介を行った。									
<input type="checkbox"/> 空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備	本講座で学んだ人が、日本で生活する外国人としての経験や知識を識字・日本語教室で発揮することで、教室の支援力をいっそう高めることができた。またエリア内の教室同士のネットワークを活用することによって、そのポテンシャルをより多くの教室で発揮することもできた。									
取組による日本語能力の向上	さまざまな言語を母語とする学習支援者が、そのポテンシャルを発揮し、より多くの外国人学習者を支援することができた。									
参加対象者	識字・日本語教室で学んだ学習者のうち、今後学習支援者としての活動を行ってもよいと考えている人、学習者を未来の学習支援者へ育成したいと考えている教室運営者	参加者数 (内 外国人数)	38人 (3人)							
広報及び募集方法	①市町村の識字・日本語担当部局にメールによって周知するとともに、教室関係者への連絡を依頼した。 ②開催案内チラシを各教室に配布した。									
開催時間数	総時間 6時間 (空白地域 時間)	内訳 3時間×2回								
主な連携・協働先	各国際交流協会等、各識字・日本語教室									
受講者の出身 (ルーツ)・国内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	2	1								35
※該当する場合のみ										
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年12月8日(土) 18:00~20:00	2	高砂日本語 教室(八尾 市)	3	わたしが支援者 になって学んだこ と	教室見学の後、支援者、教室運営者の話を聞いてテーマについて交流する。	平野 和美 岡田 慧 木下 まさ子 成夢雪			
2	平成30年12月14日(金) 18:00~20:00	2	四條畷市に ほんご教室 (四條畷市)	25	学習者からの相 談に答えたい	教室見学の後、支援者、教室運営者の話を聞いてテーマについて交流する。	養田裕美子 森 大和	内海 京子・島貫 清司・岩田 光 弘・河合 大輔・松藤 昌代		
3	平成30年12月17日(月) 10:00~12:00	2	大阪府教育 センター	10	こんな時、支援者 としてどうする?	・初めて日本語を学ぶ人の指導 ・学習者からの様々な相談への対応 について対応策を考える。	松藤 昌代	内海 京子・島貫 清司・岩田 光 弘		

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 平成30年12月8日】

場所 高砂日本語教室(八尾市)

内容 教室見学: わたしが支援者になって学んだこと  
府内の教室を訪ねて支援者の話を聞いた。



○取組事例②

【第2回 平成30年12月14日】

場所 四條畷市にほんご教室

内容 教室見学: 学習者からの相談に応えたい  
府内の教室を訪ねて支援者の話を聞いた。



○取組事例③

【第3回 平成30年12月17日】

場所 大阪府教育センター

内容 交流ワークショップ: こんな時、支援者としてどうする？  
教育センターで受講者の交流ワークショップを行った。



(2) 目標の達成状況・成果

受講アンケートから

- ・受講した講習はあなたの期待やニーズに応じていると思いますか。(4.78/5段階)
- ・講習の内容は、理解できたと思いますか。(4.81/5段階)
- ・この講習で得たことを今後の活動に活かすことができると思いますか。(4.81/5段階)
- ・内容は充実していましたか。(4.8/5段階)

以上の通りの高い評価で各回の平均は、4.8であった。

教室訪問形式で行ったことで、教室の実際の様子がわかり、また支援者、運営者を困って質疑応答できたため、より実践に役立つ支援方法を学んでもらうことができた。

(3) 今後の改善点について

・参加者同士のネットワークをつくるため、受講動機や教室運営の課題の共有など、受講者がつながりをつくるうえで有益なワークショップを行うとともに、振り返りのワークを入れるなど交流する時間を設ける。

＜取組5＞												
取組の名称	識字・日本語学習シンポジウム											
取組の目標	本事業の進捗状況を共有し、成果と課題を整理する。 シンポジウムの開催及びその成果を府民に発信し、識字・日本語学習活動の認知を深める。											
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5つのエリアから、本事業に係る取組について体験と課題を発信した。</li> <li>・他の都道府県で実施されている体制整備の実践事例を紹介した。</li> <li>・学習者に寄り添う日本語教育支援のあり方について、再委託団体の実践を共有する。</li> <li>・教室訪問等を通じて、「標準的なカリキュラム案」の活用方法の紹介を行った結果を共有した。</li> <li>・参加者全員で、提起された課題について、その原因と課題解決の方策を協議した。</li> </ul>											
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動											
取組による体制整備	5つのエリアごとに進められている教室間の協働体制づくりの取組を全エリアで共有し、成果、課題及び今後の方策を協議することにより、各エリアの取組をさらに活性化させられた。											
取組による日本語能力の向上	教室間の協働体制が強化されたことによって、より多くの日本語習得を必要とする学習者のニーズに応えることができるようになった。											
参加対象者	識字・日本語教室関係者、行政担当者等					参加者数 (内 外国人数)		84人 (3人)				
広報及び募集方法	開催案内を各教室に配付するとともに、各市町村、国際交流協会等で案内チラシを配布、大阪府のホームページに掲載した。											
開催時間数	総時間 3時間 (空白地域 時間)					内訳 3時間×1回						
主な連携・協働先	府内の国際交流協会、識字・日本語連絡会											
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本		
	1	1								81		
※該当する場合のみ 国籍不明 1												
実施内容												
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名				
1	平成31年1月25日(金) 14:00~17:00	180分	大阪市立総合生涯学習センター(梅田)	84	地域日本語教育力をめぐる 大阪の識字・日本語学習の意義と課題 識字・日本語教育の支援力強化のために	地域日本語教室の歴史や果たして来た役割を確認し、今後を展望する。 大阪における識字・日本語学習について、現況を確認し、今後の課題を考える。 講師とシステムコーディネーターをパネリストとしてテーマについて、パネルディスカッション	石井 恵理子 新矢 麻紀子 石井 恵理子 新矢 麻紀子 内海 京子 河合 大輔 松藤 昌代	安田 乙世・池嶋 伸晃				

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 31年1月25日】

○ 識字・日本語学習シンポジウム(文化庁事業)(参加者 84人)

地域で活動する識字・日本語教室の支援力強化事業(文化庁事業)の成果と課題を整理し、共有する。

① 今後の識字・日本語教育について、国の動向などの情報を共有する。

② 今後の識字・日本語教育について、学識より動向などの情報を共有する。

③ 『大阪府識字・日本語教室取組事例集』(システムコーディネーターが、本事業に係る取組を通じて把握した各エリアの現状と課題を紹介する小冊子)について紹介し、大阪の識字・日本語学習活動の多様性、将来性を共有する。

④ 大阪の識字・日本語学習の意義を共有し、連携を深める。

実施日・場所 平成31年1月25日(金)14:00~17:00 大阪府立 総合生涯学習センター

講演 地域日本語教育力をめぐって

日本語教育学会 会長 東京女子大学 教授 石井 恵理子

講演 大阪の識字・日本語学習の意義と課題

大阪産業大学 教授 新矢 麻紀子

パネルディスカッション

識字・日本語教育の支援力強化のために

コーディネーター 安田 乙世(NPO法人おおさかこども多文化センター理事)

パネラー 石井 恵理子(東京女子大学)

新矢 麻紀子(大阪産業大学)

内海 京子(中・南河内エリアシステムコーディネーター)

河合 大輔(豊能エリアシステムコーディネーター)

松藤 昌代(北河内エリアシステムコーディネーター)

池嶋 伸晃(大阪府教育庁 地域教育振興課)



(2) 目標の達成状況・成果

受講アンケートから

・石井教授の講演は参考になった? (4.66/5段階)

・新矢教授の講演は参考になった? (4.65/5段階)

・パネルディスカッションは参考になった? (4.57/5段階)

・今回のシンポジウムで得たことを今後の活動に活かせるか? (4.36/5段階)

・本日の内容は充実していたか? (4.45/5段階)

以上の通りの高い評価で各回の平均は、4.54であった。

参加者が84名と多く、文化庁委託事業の成果を多くの方に発信でき、またパネルディスカッションで会場からの声に回答したことにより成果と課題の整理に有用であった。

(3) 今後の改善点について

・講演2本とパネルディスカッションと多くの内容を盛り込んだため、各部の時間がやや足りなくなった。プログラム構成を見直すことによって、より参加者にとって深い内容のシンポジウムとなるよう改善していく。

＜取組6＞										
取組の名称	よみかきこうりゅうかい									
取組の目標	府内の識字・日本語教室の学習者、学習支援者がお互いに情報交換や意見交流を行うことにより、日常の活動への意欲や課題を解決していくヒントを得る機会とする。									
取組の内容	大阪府内の識字・日本語教室の学習者、学習支援者が一堂に会する交流会を開催した。外国人をはじめとした日本語学習に関わっている人が集まり、日常の活動についての成果や課題などの情報交換や意見交流を行う分科会も実施した。分科会の中で「標準的なカリキュラム案」の活用方法の紹介を行った。									
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
取組による体制整備	外国人をはじめとした日本語学習に関わる人たちの教室をこえた連携が促進された。									
取組による日本語能力の向上	外国人をはじめとした日本語学習に関わる人たちが、ともに学ぶ仲間としてのつながりを深め、今後の活動への意欲や誇りが高まった。									
参加対象者	府内の識字・日本語教室学習者、学習支援者、市町村担当者	参加者数 (内 外国人数)	12人 (8人) ※よみかきこうりゅうかい全体会参加者数は451人							
広報及び募集方法	各市町村を通じ、民間運営の教室も含めた各教室に案内し、積極的な参加を呼びかけた。									
開催時間数	総時間 5時間 (空白地域 時間)	内訳 5時間×1回								
主な連携・協働先	識字・日本語連絡会、大阪府内中学校夜間学級									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
※該当する場合のみ		8								4
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年10月28日(日) 10:30～15:00	5	大阪府教育センター	12	教室同士の連携構築	ともに学ぶ仲間としてのつながりを深め今後の活動への意欲を高める。	徐 受 延 金 相 文	島 貴 清 司・河 合 大 輔		

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

○取組事例①

【第1回 平成30年10月28日】

○だい29かい よみかきこうりゅうかい2018

日時 10月28日(日) 10:30~15:00

場所 大阪府教育センター

内容 全体会 教室紹介 スライド映写、メッセージ紹介  
教室発表

① よみかききょうしつ とよなか による紙芝居

② 大阪市内識字・日本語教室連絡会による識字劇場その1  
分科会

A 作文のひろば

B おしゃべりのひろば

C なかまづくりのひろば

D 異文化とふれあうひろば

E 俳句のひろば

F 世界の歌とおどりのひろば

G ものづくりのひろば

H 韓国・朝鮮文化を楽しむひろば

I 中国語でおしゃべりするひろば

参加者数 (教室) 当日参加442人 36教室

(教室以外当日) 9人 当日参加総数 451人



(2) 目標の達成状況・成果

- ・全体として36の識字・日本語教室や夜間中学校・夜間学級が参加し、参加人数は合計451人であった。
- ・午前の全体会では、参加教室・学級の紹介の後、よみかき きょうしつ とよなか による教室紹介の紙芝居が発表され、普段の教室活動のようすが、わかりやすく紹介され、教室や学級の異なりを超えて、識字・日本語教室の意義を共有することができた。
- ・午後の分科会では、「異文化のひろば」や「中国語でおしゃべりするひろば」など9つの「ひろば」に分かれて分科会が開催され、コーディネーターや学習支援者を交えて活発な討議や交流が行われた。少人数に分かれることにより、参加者同士の交流がより盛んに行われた。

(3) 今後の改善点について

- ・36の識字・日本語教室、夜間中学校・夜間学級から442人と当日参加9人の合計451人が参加する大きな行事のため、事前準備が大変である。具体的には、会場の確保、参加者の把握、講師やコーディネーターの手配、分科会の担当者や記録者等の手配など規模が拡大するにつれて、行事の円滑な実施のための事前準備に関わる負担が大きくなっており、計画策定の時期を早めたり、大阪府の他の部局との連携もより図っていかねばならない。
- ・分科会のあり方について、参加者が10名以下の分科会と参加者が100名以上の分科会があり、参加者数によって交流の内容や自発的な参加意欲などに差が出ないように、分科会の内容を再精査していかなくてはならない。

＜取組7＞											
取組の名称	海外協力グループ「クスクス」による日本語教育活動										
取組の目標	学習者と学習支援者が対等な立場でお互いの力を発揮し、持続可能な形で活気ある教室活動になるよう、先進的な取組を実施し、府内の他の識字・日本語教室に発信する。										
取組の内容	クスクスは、外国人学習者の多様なニーズに対応する先進的な教育モデルを実施していることから、他地域の参考となるよう再委託を行い、その取組内容や成果について、府内日本語教育関係者に広く発信した。 多様な学習者が集まるターミナル型教室の特徴を活かして、以下の取組を行った。そのため、コーディネーター5名は会議を開催し、以下の取組を円滑に実施した。(謝金等は計上しない) 1. 次世代の学習支援者を拡大するために、教室活動の広報・案内を行う。 2. 外国人学習者が主体となる取組(外国人住民への教室活動の案内等)を実施する。 3. 教室運営委員会を設置し、学齢期外国人学習者への日本語教室での支援のあり方を検討する。 4. 「標準的なカリキュラム案」を活用した取組を行う。 5. 識字・日本語学習シンポジウムで教室の取組について発表するとともに、市町村識字・日本語担当者連絡会議でも報告して情報を発信する。										
<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備	取組の成果を広く発信することにより、他の識字・日本語教室の取組の活性化に資することができた。										
取組による日本語能力の向上	学習者の主体的な取組を引出し、日本語習得のみならず、生活者として地域社会に積極的に参画できる主体としてエンパワーすることができた。										
参加対象者	日本語学習の学習者、支援者						参加者数 (内 外国人数)		49人 (24人) ※グループの教室全体では212人		
広報及び募集方法	広報紙への掲載、募集チラシの配布、府教委ホームページでの案内した。										
開催時間数	総時間 64時間 (空白地域 時間)				内訳 2時間×32回						
主な連携・協働先	高槻市社会福祉協議会・高槻市教育委員会、高槻市市民広域サポートセンター										
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	18	3	1	34	1	6	12	0	5	112	
※該当する場合のみ	カナダ(1)、スペイン(1)、台湾(2)、ミャンマー(12)、メキシコ(1)、モロッコ(1)、ラオス(1)										
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名			
1	平成30年6月10日(日) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	21	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	石田勝彦 中井啓子 宗光恵子	相田剛他23名			
2	平成30年6月12日(火) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	18	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	森勝則 長島久子 安永八千代	反保良子他22名			
3	平成30年6月17日(日) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	22	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	石田勝彦 中井啓子 宗光恵子	相田剛他23名			
4	平成30年6月19日(火) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	18	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	森勝則 長島久子 安永八千代	反保良子他24名			
5	平成30年7月1日(日) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	23	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	石田勝彦 中井啓子 宗光恵子	相田剛他25名			
6	平成30年7月3日(火) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	20	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	森勝則 長島久子 安永八千代	反保良子他23名			
7	平成30年7月15日(日) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	19	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	石田勝彦 中井啓子 宗光恵子	相田剛他25名			
8	平成30年7月17日(火) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	18	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	森勝則 長島久子 安永八千代	反保良子他23名			
9	平成30年7月22日(日) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	22	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	石田勝彦 中井啓子 宗光恵子	相田剛他25名			
10	平成30年9月4日(火) 10:00~12:00	2	高槻市立生涯学習センター	20	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	森勝則 長島久子 安永八千代	反保良子他23名			
11	平成30年9月2日(日) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	19	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	石田勝彦 中井啓子 宗光恵子	相田剛他25名			
12	平成30年9月9日(日) 10:00~12:00	2	高槻市立生涯学習センター	21	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	石田勝彦 中井啓子 宗光恵子	相田剛他25名			
13	平成30年9月11日(火) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	18	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	森勝則 長島久子 安永八千代	反保良子他23名			
14	平成30年9月16日(日) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	15	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	石田勝彦 中井啓子 宗光恵子	相田剛他23名			

15	平成30年9月18日(火) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	18	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	森勝則 長島久子 安永八千代	反保良子他23名
16	平成30年10月7日(日) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	15	日本語学習	ペアまたは全体学習の実施及び教室見学者や新たな登録者への対応	石田勝彦 中井啓子 宗光恵子	相田剛他23名
17	平成30年10月9日(火) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	18	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	森勝則 長島久子 安永八千代	反保良子他23名
18	平成30年10月14日(日) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	23	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	石田勝彦 中井啓子 宗光恵子	相田剛他23名
19	平成30年10月16日(火) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	20	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	森勝則 長島久子 安永八千代	反保良子他22名
20	平成30年10月21日(日) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	18	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	石田勝彦 中井啓子 宗光恵子	相田剛他25名
21	平成30年11月4日(日) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	19	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	石田勝彦 中井啓子 宗光恵子	相田剛他25名
22	平成30年11月6日(火) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	20	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	森勝則 長島久子 安永八千代	反保良子他24名
23	平成30年11月13日(火) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	20	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	森勝則 長島久子 安永八千代	反保良子他24名
24	平成30年11月18日(日) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	22	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	石田勝彦 中井啓子 宗光恵子	相田剛他25名
25	平成30年11月20日(火) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	20	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	森勝則 長島久子 安永八千代	反保良子他24名
26	平成30年11月25日(日) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	22	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	石田勝彦 中井啓子 宗光恵子	相田剛他25名
27	平成30年12月4日(火) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	21	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	森勝則 長島久子 安永八千代	反保良子他24名
28	平成30年12月9日(日) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	24	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	石田勝彦 中井啓子 宗光恵子	相田剛他25名
29	平成30年12月11日(火) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	21	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	森勝則 長島久子 安永八千代	反保良子他24名
30	平成30年12月16日(日) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	21	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	石田勝彦 中井啓子 宗光恵子	相田剛他25名
31	平成30年12月18日(火) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	21	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	森勝則 長島久子 安永八千代	反保良子他24名
32	平成31年1月6日(日) 10:00~12:00	2	高槻市立総合市民交流センター	19	日本語学習	教室ではマンツーマン方式を基本形態とし、別途サロンでは初級者に対する集団学習を行う	石田勝彦 中井啓子 宗光恵子	相田剛他25名

### (1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

#### ○取組事例①

全32回の活動において多様な学習者が集まるターミナル型教室の特徴を活かして、以下の取組を行った。  
 (1) 外国人学習者が自ら学ぶための支援や学習方法について研究  
 (2) 外国人学習者が主体となる年間40回の学習講座を開催・実施  
 (3) 教室運営委員会を設置し、学齢期外国人学習者への日本語教室での支援のあり方の検討

### (2) 目標の達成状況・成果

・教室の目的・理念に基づき、日本語教室の他に学習者・支援者が共同で3つのグループ(交流グループ・留学生支援グループ・日本語グループ)を運営し、これらを通じてお互いの文化を学び合い、相互理解と国際交流を推進するとともに、外部団体との協働事業にも積極的に参加することにより、学習者の主体的な取組を引出した。

### (3) 今後の改善点について

・参加者が増加傾向にあり、安定して開催できるよう教室の場所の確保に努める必要がある。

#### 4. 事業に対する評価について

##### (1) 事業の目的・目標

府内の識字・日本語教室相互の連携体制を構築する。  
・学習支援者が、学習者の多様なニーズに応えられるスキルを高め、教室の支援力を強化する。  
(大阪府では、識字運動の中で作られ、活動を続けてきた識字学級にも外国人学習者を受け入れ、ともに学ぶ活動が行われており、日本語教室とともに識字・日本語教室として、学習活動推進のための取組を進めている。)

##### (2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・府内90教室の訪問やエリアネットワーク会議を開催することで、府内5つのエリアにおける各教室どうし、教室と行政その他の組織との連携が進んだ。また、システムコーディネーター会議や識字・日本語学習シンポジウムなどで、5つのエリア間の情報共有も行き、府全体としての連携と学習支援体制の整備が促進された。  
・また、システムコーディネーター会議や識字・日本語シンポジウムなどで5つのエリアの課題等の情報共有や協議をすることにより、府全体としての連携体制や学習支援体制の整備が促進された。  
・「日本語初心学習者支援講習会」「社会とつなぐ日本語教室運営講座」「日本語教室学習支援者養成講座」の取組を実施することにより、教室支援者等が教室の様々な課題に対応するスキルを高めることにつながった。

##### (3) 地域の関係者との連携による効果、成果等

・「エリアネットワーク会議」「識字・日本語シンポジウム」「よみかきこうりゅうかい」などの取組を通じて、府内のそれぞれの教室やエリアでの課題等を共有し、一緒に考える機会を持ったことにより、教室支援者、行政担当者、関係団体等の垣根を超えた連携が促進された。具体的には、異なる地方公共団体や異なる部署の行政担当者間で情報共有が行われたり、教室支援者と行政担当者の交流が行われたことにより、教室から行政への要望の伝達や教室見学の実施などが円滑に行われるようになった。また、教室支援者、行政担当者と関係団体等の連携が行われたことにより、それぞれが実施する研修などへの参加や講師依頼などが円滑に行われるようになるなど、新たな「人と人とのつながり」が生まれた。

##### (4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・各市町村教育委員会および国際交流所管部課に対して、行事の実施を連絡するとともに、行事のチラシ配布を依頼した。  
・取組2の講習会を実施する自治体に依頼し、自治体の広報誌に講習会の募集要項を掲載してもらった。  
・各市町村国際交流協会、あるいは講習受講者に対してメールで案内した。  
・取組2「日本語初級学習者支援講習会」の受講者にその後の講習である取組3「社会とつなぐ日本語教室運営講座」及び取組4「日本語教室学習支援者養成講座」について案内をおこない、年間を通じて12回の講習を受講ができるようにして、識字・日本語学習支援についての理解が深まるよう働きかけた。

##### (5) 改善点、今後の課題について

・府内識字・日本語教室の相互のつながりをつくる基盤ができた。自立的にネットワーク化が進むよう教室支援者、行政担当者等が識字・日本語学習の課題の共有や意見交換の方法を市町村識字・日本語担当者会議で工夫した。  
・取組2 日本語初心学習者支援講習会では、会場の収容定員を超える参加申込者があったにもかかわらず、当日の不参加者が各回2割程度あったため、空席ができた。講習会開始時に、全体のコースデザインと取組の目標をしっかりと伝えることで、不参加者数を減らすことに努める。  
・事業終了時に、認定証などを配付することを検討し、申込者の積極的参加を促すことを検討する。

##### (6) その他参考資料

取組2チラシ

取組3チラシ

取組4チラシ

取組6チラシ